

ビタミンC製剤  
日本薬局方 アスコルビン酸注射液  
**アスコルビン酸注 500mg 「イセイ」**  
ASCORBIC ACID Injection 500mg “ISEI”

貯法：冷所保存

有効期間：2年

処方箋医薬品<sup>注)</sup>

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

承認番号	23000AMX00168000
販売開始	1988年1月

### 3. 組成・性状

#### 3.1 組成

販売名	アスコルビン酸注500mg「イセイ」
有効成分	1管(2mL)中 日局 アスコルビン酸 500mg
添加剤	1管(2mL)中 ピロ亜硫酸ナトリウム 2mg パラオキシン安息香酸メチル 2.8mg pH調節剤 適量

#### 3.2 製剤の性状

販売名	アスコルビン酸注500mg「イセイ」
剤形	水性注射剤
性状	無色澄明の液
pH	5.6~7.4
浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	約9

### 4. 効能又は効果

- ビタミンC欠乏症の予防および治療(壊血病、メルレル・バロ一病)
  - ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分の際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など)
  - 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
    - 毛細管出血(鼻出血、歯肉出血、血尿など)
    - 薬物中毒
    - 副腎皮質機能障害
    - 骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
    - 肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
    - 光線過敏性皮膚炎
- 3.の適応に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

### 6. 用法及び用量

アスコルビン酸として、通常、成人1日50~2,000mgを1~数回に分けて静脈内注射する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

- \*9.1 合併症・既往歴等のある患者
- 9.1.1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 9.7 小児等
- 小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

### 12. 臨床検査結果に及ぼす影響

- 12.1 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。
- 12.2 各種の尿検査(潜血、ビリルビン、亜硝酸塩)・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

### 14. 適用上の注意

#### 14.1 薬剤投与時の注意

##### 14.1.1 投与経路

静脈内注射にのみ使用すること。

##### 14.1.2 静脈内注射時

血管痛があらわれることがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

### \*15. その他の注意

#### 15.1 臨床使用に基づく情報

本剤は添加剤として亜硫酸塩を含有している。喘息患者では非喘息患者よりも亜硫酸塩に対する過敏症が多く認められるとの報告がある。

### 18. 薬効薬理

#### 18.1 作用機序

アスコルビン酸はビタミンCである。代表的な欠乏症が壊血病であり、出血傾向の増大、骨・歯牙の発育遅延、抗体産生能や創傷治癒能の低下を起こす。本剤の投与はこれらの疾患や症状に効果があるが、生理的意義や作用は十分明らかではない。コラーゲン生成への関与、毛細血管抵抗性の増強や血液凝固時間の短縮などによる出血傾向の改善、副腎皮質機能への関与(ストレス反応の防止)、メラニン色素生成の抑制などが報告されている<sup>1)</sup>。

#### 18.2 結合織に対する作用

アスコルビン酸は、結合織の主成分であるコラーゲンの生成に関与しており、アスコルビン酸の欠乏は、皮膚、骨、歯、血管等の脆弱化をもたらす。すなわち、アスコルビン酸はコラーゲン中のprolineからhydroxyprolineへの水酸化過程に関与し<sup>2)</sup>(*in vitro*)、アスコルビン酸の投与によりコラーゲンの増加がみられる<sup>3)</sup>(モルモット)。

また、アスコルビン酸は骨形成を進行させ、モルモット実験的骨折の修復機転において治癒的に作用する<sup>4),5)</sup>。

#### 18.3 毛細血管、血液に対する作用

アスコルビン酸は毛細血管抵抗を増強し<sup>6)</sup>(マウス)、出血傾向を改善する<sup>7)</sup>(モルモット)。

#### 18.4 薬物中毒に対する作用

アルコール中毒患者では、血中アスコルビン酸濃度が低値を示すものが多く、アスコルビン酸の欠乏が起こるとされている<sup>8)</sup>。アルコール中毒患者へのアスコルビン酸投与は、低下した尿中アスコルビン酸排泄量を回復させ<sup>9)</sup>、血中アルコール濃度の上昇を一時的に抑制する<sup>10)</sup>。

また、ニコチンは副腎皮質を刺激し、副腎皮質ホルモンの分泌を促してアスコルビン酸の消費を増大させる<sup>8)</sup>。

#### 18.5 メラニン色素生成に対する作用

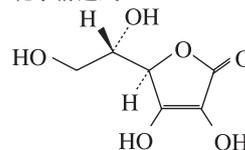
アスコルビン酸は、チロシンからのメラニン生成過程の中で、DOPAからDOPAキノンへの酸化過程を阻害し、メラニン色素の生成を抑制する<sup>11)</sup>(*in vitro*)。

### 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：アスコルビン酸(Ascorbic Acid)

化学名：L-threo-Hex-2-enono-1,4-lactone

化学構造式：



分子式：C<sub>6</sub>H<sub>8</sub>O<sub>6</sub>

分子量：176.12

性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。

本品は水に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

融点：約190℃(分解)

## 20. 取扱い上の注意

外箱開封後は遮光して保存すること。

## 22. 包装

2mL 50管(ガラスアンプル)

## 23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店. 2021 : C-95-C-100
- 2) Levene C.I., et al. : Biochim. Biophys. Acta. 1972 ; 257 : 384-388
- 3) Gould B.S., et al. : Ann. New York Acad. Sci. 1960 ; 85 : 385-398
- 4) Fullmer H.M., et al. : Ann. New York Acad. Sci. 1961 : 92 : 286-294
- 5) 梶原 章 : 最新医学. 1962 ; 17 : 1429-1446
- 6) 藤田和典ほか : 日本皮膚科学会雑誌. 1963 ; 73 : 580-589
- 7) Lee R.E. : J. Nutr. 1960 ; 72 : 203-209
- 8) 田多井吉之介 : 日本医事新報. 1966 ; No.2190 : 161-162
- 9) Lester D., et al. : J. Nutr. 1960 ; 70 : 278-282
- 10) 飯島泰彦 : 精神神経学雑誌. 1960 ; 62 : 862-875
- 11) 竹内 勝ほか : ビタミン. 1963 ; 28 : 501-507

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

コーアイセイ株式会社 くすり相談窓口  
〒990-2495 山形市若葉町13番45号  
TEL 023(666)5797  
FAX 023(624)4717

## 26. 製造販売業者等

### 26.1 製造販売元



**コーアイセイ株式会社**

山形市若葉町13番45号